

件名

認知症サポート養成講座(10月14日10時)

今や老後の最大の不安となり、超高齢社会をつき進む日本にとって最重要課題の一つとなっています。すでに全国で462万人の認知症患者数があり、受診していない潜在患者数を含めるとその数は相当数である。いつの日か、認知症者数800万人時代が来るだろうと言われており、誰にも切実であり深刻な問題が身近に忍び寄っています。

その現実に対しての対応は医療だけでなく「地域で支援しましょうという活動」が全国で展開されており、全国組織としてキャラバンメイト連絡協議会があり、各地区の地域包括センター、民生委員の方々が認知症に対して支援と啓蒙活動が展開されています。その活動の一貫として当地では今回で3回目の認知症サポート養成講座が実施されました。事前の案内に対して登録された新たな数は17名でした。世代別構成は20代(1名)30代(1名)40代(0)50代(4名)60代(3名)70代(6名)であり、各世代にその関心があることがわかる。

講義内容は①認知症サポーターとは②認知症について③認知症介護者の体験という1時間30分の講義内容でした。サポーターとは「なにか」特別な活動をする人ではなく、困っている認知症の方や家族を温かく見守り支援する事であるということ強調され、認知症は脳の病気であることを理解することが大事であり、その理解があれば認知症のケアが適切にケアができるということの説明でした。実際に適切なケアと不適切なケアのケースを実演をして見せながら参加者の理解をより具体的に高めていく講義もありました。最後に受講者全員に認知症サポーターの証であるオレンジリングを配布をし無事終了しました。

